

ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-BE1



安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

4~6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。7ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりさし込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においが
したら、
煙が出たら



- ①電源を切る
②電源プラグをコンセントから抜く
③お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する



警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



指挟み

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

目次

警告・注意	4
使用上のご注意	7
<hr/>	
設置と準備	8
付属品を確認する	8
接続する	9
スピーカーを設置/設定する	13
<hr/>	
操作	16
音量を調節する	16
ソフトに合ったサラウンド効果を選ぶ	18
音質を調整する	20
DVDを再生する	22
テレビを見る	23
自動的に電源を切る	24
<hr/>	
その他	25
故障かな?と思ったら	25
保証書とアフターサービス	26
主な仕様	28
各部のなまえ	29

本機はドルビー*デジタルデコーダー、ドルビープロロジックサラウンドシステム、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

** Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

警告・注意

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

！警告



火災

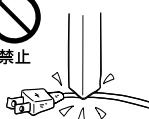


感電

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源プラグを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や直射日光のある場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

- 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

- 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

本体や電源プラグなどに触れると感電の原因となります。



本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



警告・注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

⚠ 注意

ぬれた手で電源プラグにさわらない
感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

→呼びかけられたら気がつくくらい
の音量で聞きましょう。



はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることができます。ボリュームは徐々に上げましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



コード類は正しく配置する

電源コードやスピーカーコード、AVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



電池についての 安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

アルカリ電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



電池は乳幼児の手の届かない所に置く
電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

- 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがやけがの原因となることがあります。

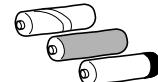


⚠ 注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがやけがの原因となることがあります。

- 電池の品番を確かめ、お使いください。



+と-の向きを正しく入れる

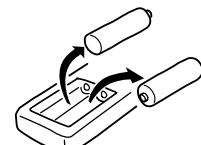
+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがやけがの原因となることがあります。

- 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがやけがの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。)

音量を調節するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

テレビ画面に色むらがおきたら
いったんテレビの電源を切り、15~30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

付属品を確認する

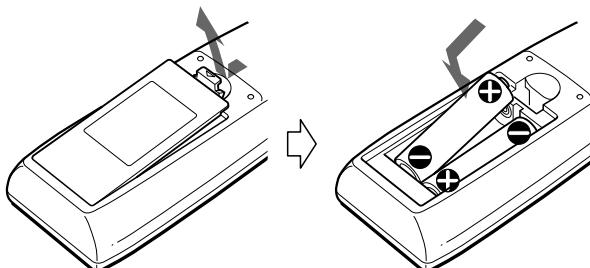
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- サブウーファー（本体）（1）
- サテライトスピーカー（5）
- スピーカーコード 8m（2）
- スピーカーコード 3m（3）
- 光デジタルコード（1）
- リモコン RM-BE1（1）
- ソニー単3形乾電池（R6）（2）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れる。



ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないとときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部  に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

接続する

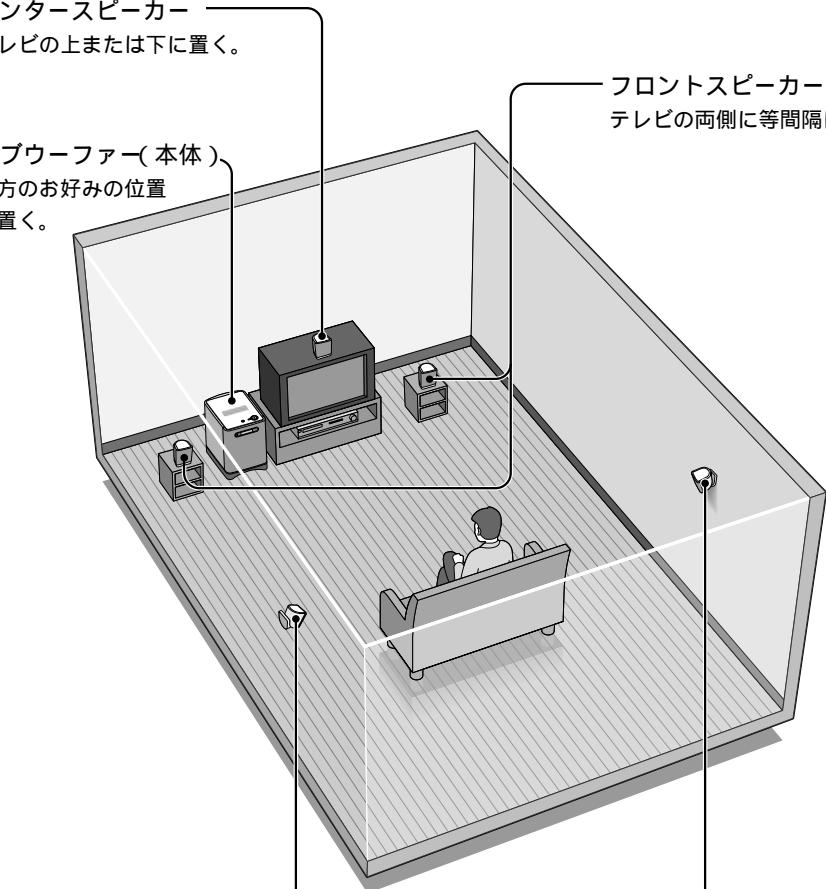
スピーカーの配置

サラウンド効果をお楽しみいただくために、スピーカーを下図のように配置することをおすすめします。

センタースピーカー
テレビの上または下に置く。

サブウーファー(本体)、
前方のお好みの位置
に置く。

フロントスピーカー
テレビの両側に等間隔に置く。

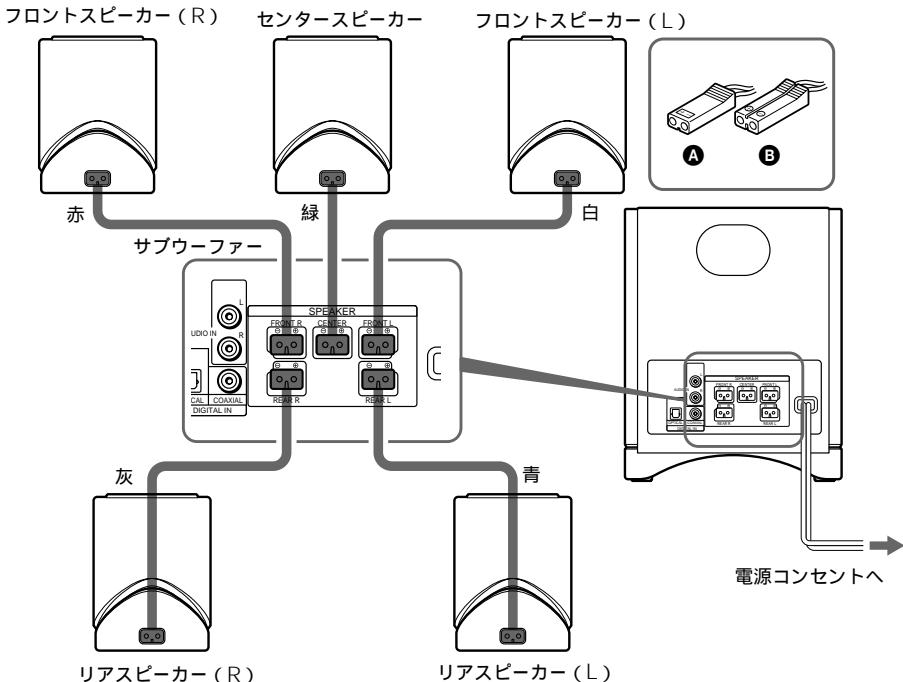


リアスピーカー
リスニングポジションの真横からやや斜め
後方の間で、耳の高さよりやや高い位置に
置く。

サテライトスピーカーをつなぐ

サブウーファーに、付属のスピーカーをつなぎます。

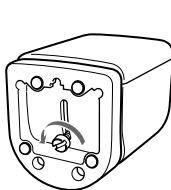
接続には付属のスピーカーコード（5本）を使います。コードと本体の各端子は色分けされています。色が合うようつないで下さい。コードの小さいプラグ（下図の**A**）はスピーカー側、大きいプラグ（下図の**B**）は本体側に、+と-の印を合わせてしっかりと差し込んで下さい。



サテライトスピーカーの角度を調節する

付属のサテライトスピーカーをお好みの角度に調節することができます。

1 スピーカーの底面のネジをゆるめる。



2 角度を調節して、ネジを固定する。

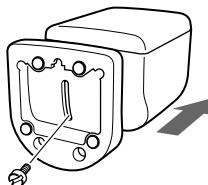


ご注意

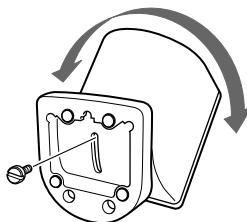
サテライトスピーカー底面のネジをゆるめたり、固定するときは、ドライバーをお使いください。

サテライトスピーカーを壁面に取り付ける

1 スピーカーの底面のネジを外す。



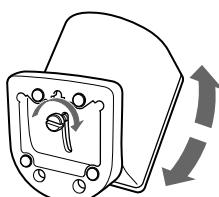
2 スピーカースタンドを180°逆向きにし、外したネジで軽く留める。



ご注意

スピーカースタンドは180°以上回さないでください。スピーカーとスタンドの間にあるコードが断線することがあります。

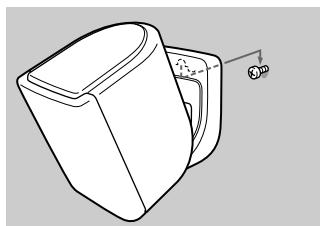
3 角度を調節してネジを固定する。



4 壁に取り付ける。

壁面に市販のネジを取り付け、サテライトスピーカーの底面にあるネジ用のくぼみを壁面のネジにかけます。

ネジ用のくぼみは、中央、左右に3つあります。くぼみを選んで、お好みの向きに取り付けてください。



ご注意

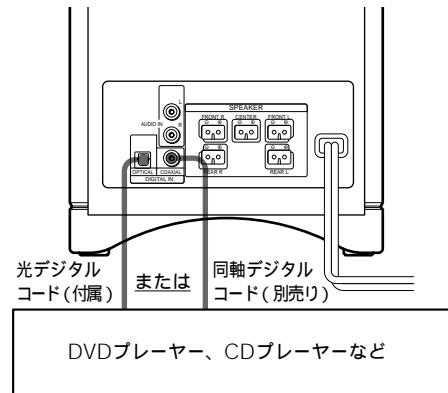
- ・サテライトスピーカー底面のネジを外したり、固定するときは、ドライバーをお使いください。
- ・サテライトスピーカーのスタンドとスピーカーの間のコードを、挟み込まないようにご注意ください。
- ・本機を壁に取り付けて使用する場合は、充分な強度を確保できる壁面に確実に取り付けてください。確実に取り付けないと落下して大変危険です。お客様の設置によるいかなる破損、損傷に対して、当社は一切の責任を負いかねます。

その他の機器を接続する

このシステムには、DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどのデジタルオーディオ/ビデオ機器、およびテレビやビデオデッキを接続できます。

デジタルオーディオ/ビデオ機器を接続する

DIGITAL IN OPTICAL (またはCOAXIAL) 端子に接続します。



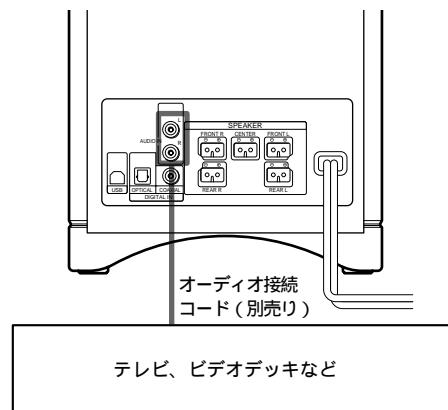
ご注意

光デジタルコードは、小さく束ねたり結んだりしないでください。



アナログオーディオ/ビデオ機器を接続する

AUDIO IN (L/R) 端子に接続します。



スピーカーを設置/設定する

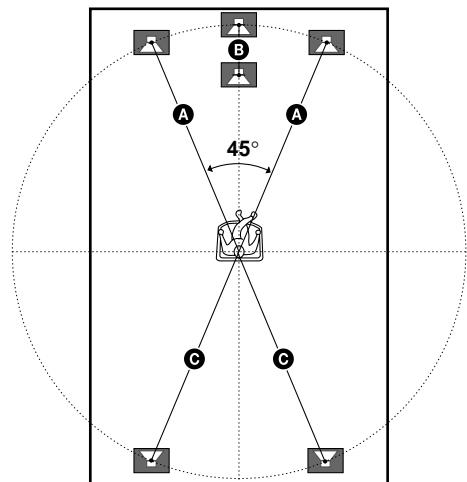
スピーカーを設置する

サラウンド効果を十分に楽しむためには、各スピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離に設置してください。

フロントスピーカーは、リスニングポジションから0.2~5mのところに設置してください。（下図のⒶ）。

フロントスピーカーに対して、センタースピーカーを約0.6 m（下図のⒷ）、リアスピーカーを約1.6 m（下図のⒸ）まで近づけて置くことができます。

サブウーファーは前方のどこに置いてもかまいません。



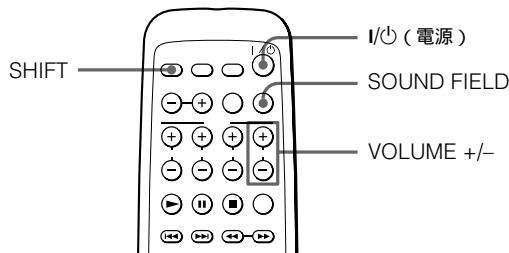
ご注意

- センタースピーカーとリアスピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。

スピーカーを設定する

ドルビーサラウンドを充分に楽しむために、リスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を設定します。

スピーカーの位置に応じて最適なサラウンド効果が得られるように、各スピーカーからの出力が自動的に調整されます。



- 1 I/Off(電源)ボタンを押し、本機の電源を入れる。
- 2 SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。
表示窓にDSGが表示されます。
- 3 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +/-ボタンを押して、設定したい項目を選ぶ。
下記の順に設定項目が選ばれて、表示窓に表示されます。設定項目についての詳しい説明は、次ページをご覧ください。

DSG (Dynamic Sound Generator) (21 ページ) ←

↓
DRC (Dolby Dynamic Range Control) (20 ページ)

↓
AUTO (24 ページ)

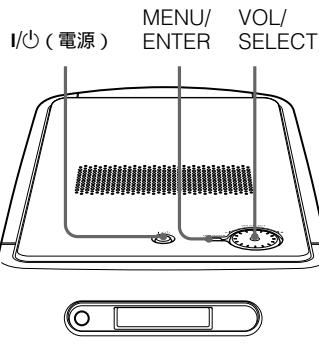
↓
F-DST (フロントスピーカー) (15 ページ)

↓
C-DST (センタースピーカー) (15 ページ)

↓
R-DST (リアスピーカー) (15 ページ) —

- 4 設定したい項目の表示中に、SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。
- 5 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +/-ボタンを押して、設定する。
- 6 手順2~5を繰り返して、全ての項目を設定する。
リモコンから指を離して数秒たと、設定項目が表示窓から消えて本機に登録されます。

本体で設定するには



- 1 I/O(電源)ボタンを押し、本機の電源を入れる。
- 2 MENU/ENTERボタンを押す。
- 3 VOL/SELECTつまみを回し、表示窓にSETUPを表示させ、MENU/ENTERボタンを押す。
- 4 VOL/SELECTつまみを回して調節したい項目を選び、MENU/ENTERボタンを押す。
 - F-DST (フロントスピーカー)
 - C-DST (センタースピーカー)
 - R-DST (リアスピーカー)
- 5 VOL/SELECTつまみを回して設定し、MENU/ENTERボタンを押す。
- 6 手順2~5を繰り返して、全ての項目を設定する。

本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

設定項目について

下記の設定項目があります。

■F-DST (FRONT DISTANCE) (フロントスピーカーまでの距離)

0.2~5mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。お買い上げ時は2.4mに設定されています。

■C-DST (CENTER DISTANCE) (センタースピーカーまでの距離)

フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに0.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。お買い上げ時は2.4mに設定されています。

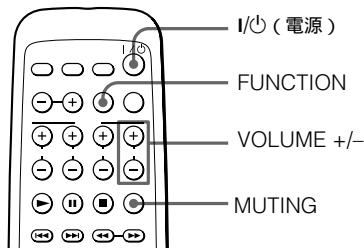
■R-DST (REAR DISTANCE) (リアスピーカーまでの距離)

フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに1.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。お買い上げ時は2.0mに設定されています。

音量を調節する

すべてのスピーカーの音量を調節する

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。



1 I/待機 (電源) ボタンを押し、本機の電源を入れる。

2 ソフトを再生する。

3 音が出ないときは、FUNCTIONボタンを押して、入力を選ぶ。

押すたびに下記の順に入力が選ばれて、表示窓に表示されます。



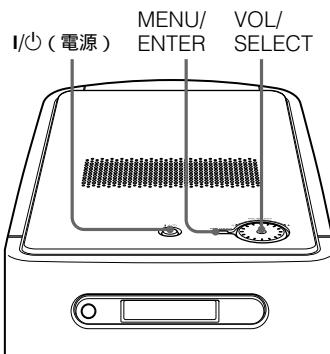
4 VOLUME +/-ボタンを押して、音量を調節する。

音を消す

MUTINGボタンを押す。

M-ON (MUTING ON) が表示されます。音を出すには、もう一度MUTINGボタンを押します。

本体で調節するには



1 I/待機 (電源) ボタンを押し、本機の電源を入れる。

2 ソフトを再生する。

3 音が出ないときは、MENU/ENTERボタンを押す。

4 VOL/SELECTつまみを回し、表示窓に FUNC (FUNCTION) を表示させ、 MENU/ENTERボタンを押す。

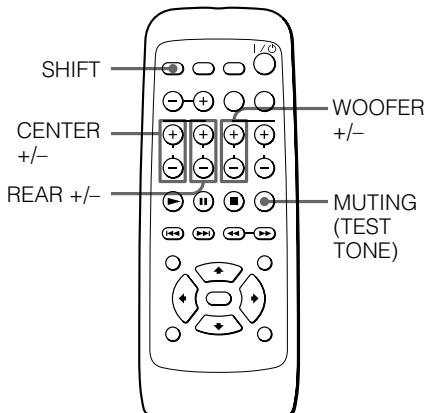
5 VOL/SELECTつまみを回して入力を選び、 MENU/ENTERボタンを押す。

6 VOL/SELECTつまみを回して音量を調節し、 MENU/ENTERボタンを押す。

⌚ 本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

各スピーカーの音量を調節する

個別のスピーカーの音量を調節できます。フロントスピーカーの音量を基準にするため、フロントスピーカーは調節できません。表示窓に調節中のスピーカーの表示が点滅します。

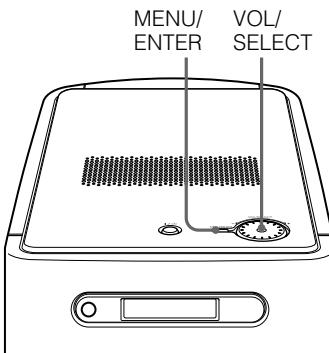


センタースピーカーの音量を調節する
CENTER +/-ボタンを押す。

リアスピーカーの音量を調節する
REAR +/-ボタンを押す。

サブウーファーの音量を調節する
WOOFER +/-ボタンを押す。

本体で調節するには



- 1 MENU/ENTERボタンを押す。
- 2 VOL/SELECTつまみを回し、表示窓に SETUPを表示させ、MENU/ENTERボタンを押す。
- 3 VOL/SELECTつまみを回して調節したい項目を選び、MENU/ENTERボタンを押す。
 - C-LEV(CENTER LEVEL X センター)
 - R-LEV(REAR LEVEL X リア)
 - W-LEV(WOOFER LEVEL X サブウーファー)
- 4 VOL/SELECTつまみを回して音量を調節して、MENU/ENTERボタンを押す。

💡 本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

💡 テストトーンを使うと、各スピーカーの音量の違いが分かりやすくなります。

リモコンでSHIFTボタンを押しながら、MUTING (TEST TONE) ボタンを押します。本体では、MENU/ENTERボタンを押し、VOL/SELECTつまみを回して、T-T (TEST TONE) を表示させてMENU/ENTERボタンを押します。

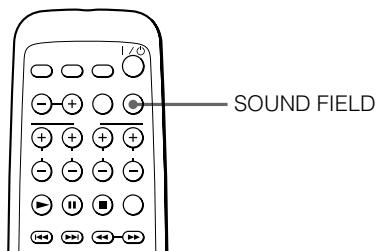
各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。すべてのスピーカーのテストトーンが同じレベルに聞こえるように、各スピーカーの音量を調節します。

テストトーンを消すには、もう一度、SHIFTボタンを押しながらMUTING (TEST TONE) ボタンを押します。本体ではMENU/ENTERボタンを押します。

ソフトに合ったサラウンド効果を選ぶ

本機に設定されているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

各サウンドフィールドモードについては、次ページの表をご覧ください。

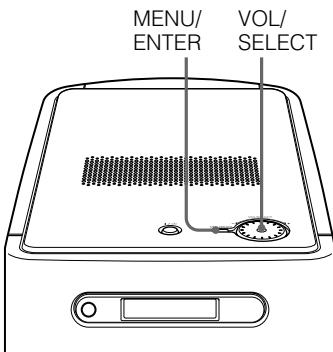


SOUND FIELDボタンを押して、選ぶ。

押すたびに下記の順にサウンドフィールドモードが選ばれて、表示窓に表示されます。

- AFD ←
(AUTO FORMAT DECODE)
- ↓
- PL (DOLBY PRO LOGIC)
- ↓
- MOVIE (DOLBY PRO LOGIC II MOVIE)
- ↓
- MUSIC (DOLBY PRO LOGIC II MUSIC)

本体で選ぶには



- 1 MENU/ENTERボタンを押す。
- 2 VOL/SELECTつまみを回して、S-FLD (SOUND FIELD) を表示させ、MENU/ENTERボタンを押す。
- 3 VOL/SELECTつまみを回してサウンドフィールドモードを選び、MENU/ENTERボタンを押す。

⌚ 本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

⌚ 再生中に最後に選んだサウンドフィールドが、FUNCTIONボタンで選んだソース機器別にメモリーされています（サウンドフィールドリンク）。FUNCTIONボタンで再生する機器を選ぶと、前回その機器の再生時に選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。
例えば、OPTICAL端子につないだDVDで、サウンドフィールドのMOVIEを選んだ後に、FUNCTIONボタンでCOAX (COAXIAL) に切り換えて、COAXIAL端子につないだ機器を聞く場合に、サウンドフィールドのMUSICを選んだとします。その後、再びFUNCTIONボタンでOPT (OPTICAL) を選ぶと、先に選んでいたMOVIEのサウンドフィールドで聞くことができます。

⌚ ドルビーデジタルまたはドルビーサラウンドでエンコードされたソフトは、パッケージを見ればわかります。

- ドルビーデジタルでエンコードされているソフトには[DOLBY DIGITAL]マーク、ドルビーサラウンドでエンコードされているソフトは[DOLBY SURROUND]マークがそれぞれ付いています。
- DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフトにはDTSマークが付いています。

ご注意

サンプリング周波数96kHzのサウンドトラックを再生しているときの信号は、48kHzに変換されて出力されます。

各サウンドフィールドモードの特長

サウンドフィールド モード	このときに	効果
AUTO FORMAT DECODE	ソフトそのものの音声 の参考用にこのモード をご使用ください。	入力された音声信号を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、ドルビープロロジック、標準的な2チャンネルステレオなど）、適切な処理をします。 このモードは何の音場効果も加えずに録音、またはエンコードされたままの音を再現します。
DOLBY PRO LOGIC	ドルビープロロジックの 音声信号を認識したソフ トに適しています。	2チャンネルステレオで録音された音声信号が、4 チャンネルステレオに処理されます。
MOVIE (DOLBY PRO LOGICII MOVIE)	ドルビーサラウンドで エンコードされた映画 音声に適しています。	ドルビーサラウンドでエンコードされた映像を5.1 チャンネルで再生します。
MUSIC (DOLBY PRO LOGICII MUSIC)	CDなど通常のステレ オ録音された音声に適 しています。	ステレオ音声に最適な5.1チャンネルで再生しま す。

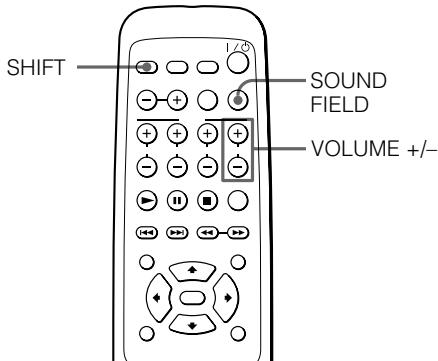
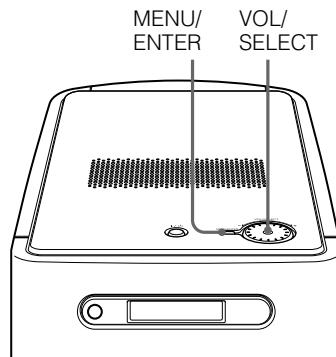
音質を調整する

小さい音を聞こえやすくする (DOLBY DRC*)

接続しているDVDの音量を下げるときに、ダイナミックレンジを圧縮し、小さい音までよく聞こえるようにします。Dolby DRC(オーディオDRC)に対応のDVDディスクを再生しているときのみ効果があります。
この機能を使うには、DVDと光デジタル端子で接続し、DVD側で出力されるドルビーデジタル音声をダウンミックスPCMに設定します。

*Dolby DRCは、Dolby Dynamic Range Controlの略です。

本体で設定するには



- 1 SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。
- 2 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +ボタンを押し、表示窓にDRC(DOLBY DRC)を表示させる。
- 3 SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。
- 4 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +/-ボタンを押し、STD(STANDARD)を選ぶ。
DOLBY DRCを切るには、OFFを選びます。

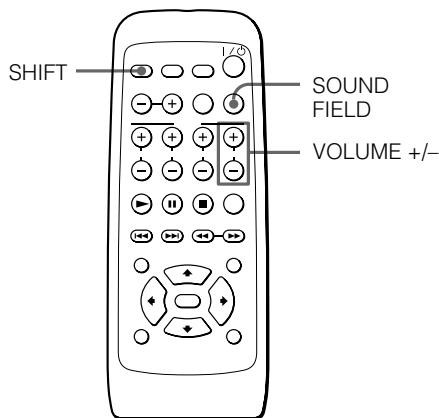
- 1 MENU/ENTERボタンを押す。
- 2 VOL/SELECT つまみを回し、表示窓にSET UPを表示させ、MENU/ENTERボタンを押す。
- 3 VOL/SELECT つまみを回し、DRC(DOLBY DRC)を選び、MENU/ENTERボタンを押す。
- 4 VOL/SELECT つまみを回し、STD(STANDARD)またはOFFを選び、MENU/ENTERボタンを押す。

💡 本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

ダイナミックな音にする (DSG*)

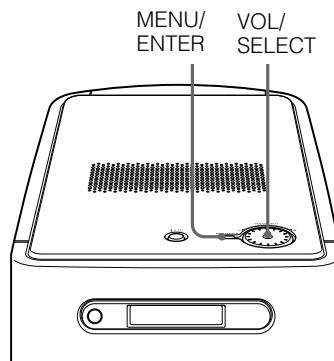
迫力のある音にします。音量を下げて聞くときでも、ダイナミックな音を楽しめます。

*DSGは、Dynamic Sound Generatorの略です。



- 1 SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。
表示窓にDSGが表示されます。
- 2 SHIFTボタンを押しながら、もう一度SOUND FIELDボタンを押す。
- 3 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +/-ボタンを押して、ONまたはOFFを選んで設定する。

本体で設定するには



操作

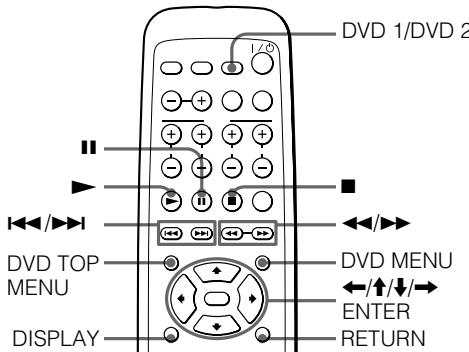
- 1 MENU/ENTERボタンを押す。
- 2 VOL/SELECT つまみを回し、表示窓にDSGを表示させ、MENU/ENTERボタンを押す。
- 3 VOL/SELECT つまみを回し、ONまたはOFFを選び、MENU/ENTERボタンを押す。

💡 本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

DVDを再生する

本機のリモコンで、ソニー製のDVDプレーヤーを操作できます。

ディスクによっては、異なる操作や禁止されている操作がありますので、再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。



こんなときは 操作のしかた

再生する ▶を押す。

止める ■を押す。

途中で止める IIを押す。

途中で止めた後、 ▶を押す。

つづきを再生する

再生中に画面を見な ◀◀または▶▶を押す。通
がら探す（スキャ 常の再生に戻したいところ
ン） で▶▶を押す。

再生中にチャプター ▶▶Iを押す。

や映像、曲を進める

再生中にチャプター I◀◀を押す。

や映像、曲を戻す

DVDプレーヤーの DVD 1を押す。

電源を入れる 今後発売される予定の新しい信号規格を用いたDVD
プレーヤーを接続して、電
源を入れる場合は、
SHIFTを押しながらこの
ボタンを押してください
(DVD2*)。

タイトルを選ぶ（タイトルメニュー）

DVDには、複数の映像や曲が記録されたものがあります。これをタイトルといいます。このようなDVDを再生するときは、タイトルメニューで好きなタイトルを選べます。

1 DVD TOP MENUボタンを押す。
タイトルメニューが表示されます。

2 再生したい タイトルを◀/↑/↓/▶で
選ぶ。

3 ENTERボタンを押す。
選んだタイトルの再生が始まります。

ご注意

- DVDによってはタイトルを選ぶことが禁止されている場合があります。

- DVDによっては「タイトルメニュー」のことを「メニュー」または「タイトル」と表示しているものがあります。また決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示しているものがあります。

* この場合、DVDプレーヤーを操作するときは、SHIFTを押しながらそれぞれのボタンを押してください。

ディスクの内容を選ぶ(DVDメニュー)

DVDには、ディスクの内容をメニューで選択できるものがあります。このようなDVDを再生するときは、再生したい項目、表示したい字幕の言語、聞きたい音声の言語などをDVDメニューで選べます。

- 1 DVD MENUボタンを押す。
DVDメニューが表示されます。DVDメニューはDVDにより異なります。
- 2 選びたい項目を $\leftarrow/\uparrow/\downarrow/\rightarrow$ で選ぶ。
- 3 別の項目を変更したいときは、手順2を繰り返す。
- 4 ENTERボタンを押す。

ご注意

DVDによっては「DVDメニュー」のことを「メニュー」と表示しているものがあります。

設定画面を使う

DVDプレーヤーの設定画面を操作できます。

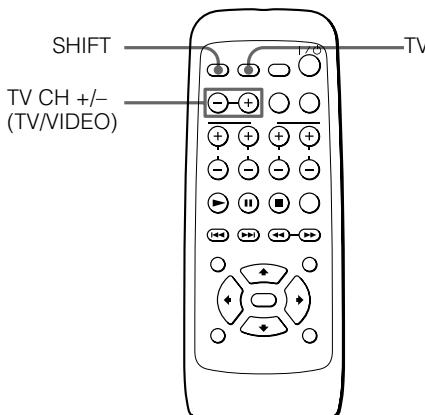
- 1 DISPLAYボタンを押す。
設定画面が表示されます。
- 2 \leftarrow/\rightarrow で設定項目を選び、ENTERボタンを押す。
- 3 \uparrow/\downarrow で項目を選び、ENTERボタンを押す。
- 4 項目を変更する。

前の画面に戻るには

RETURNボタンを押します。

テレビを見る

本機のリモコンで、ソニー製の■マーク付きテレビを操作できます。



こんなときは	操作のしかた
テレビの電源を入/切する	TVを押す。
チャンネルを切り換える	TV CH +/-を押す。
テレビの入力を切り換える	SHIFTを押しながら、TV CH - (TV/VIDEO)を押す。

ご注意

テレビによっては一部のボタンが使えないことがあります。

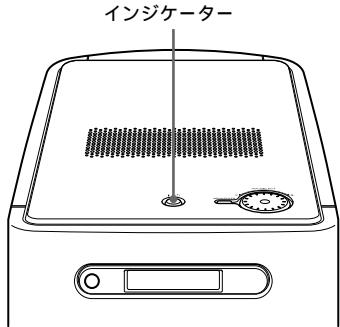
自動的に電源を切る

本機は、FUNCTIONボタンで選ばれている入力から音声信号が3分以上入らないと、自動的に電源を切れます（レディモード）。

レディモードになる前に選ばれていた入力に音声信号が入ると、自動的に電源が入りま

す。

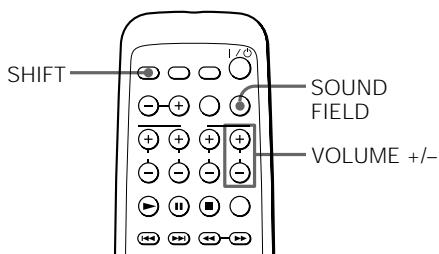
モードによって、本体のインジケーターが次のようにになります。



モード	インジケーターの状態
電源がオンのとき	緑で点灯
レディモードのとき	赤で点灯
電源がオフのとき	消灯

電源を完全に切りたいときは、I/（電源）ボタンを押して、インジケーターを消してください。

レディモードが動かないようにするには
レディモードにならないように設定できます。お買い上げ時はONになっています。



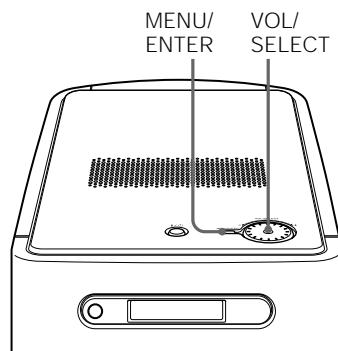
1 SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。

2 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +/-ボタンを繰り返し押して、AUTOを選ぶ。

3 SHIFTボタンを押しながら、SOUND FIELDボタンを押す。

4 SHIFTボタンを押しながら、VOLUME +/-ボタンを押して、OFFを選ぶ。

本体で設定するには



1 MENU/ENTERボタンを押す。

2 VOL/SELECT つまみを回し、表示窓にSET UPを表示させ、MENU/ENTERボタンを押す。

3 VOL/SELECT つまみを回し、AUTOを選び、MENU/ENTERボタンを押す。

4 VOL/SELECT つまみを回し、OFFを選び、MENU/ENTERボタンを押す。

💡 本体で設定するときは、MENU/ENTERボタンを2秒以上押し続けると、1つ前に選んだ項目へ戻ります。

その他

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

電源が入らない。

- 電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。

音が出ない。

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する（10、12ページ）。
- 正しい機器が選ばれているか確認する（16ページ）。
- M-ON（MUTING ON）と表示されている場合は、MUTINGボタンを押す。
- 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れる。
- 接続コードが断線している。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している。

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する（10、12ページ）。
- 各スピーカーの音量を調節する（17ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する（10、12ページ）。
- 接続コードがトランス、モーター、テレビおよび蛍光灯から離れているか確認する。

- テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
- ディスクに汚れ、傷がある。

ビデオCD、CDを再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する（10、12ページ）。

ドルビーデジタルの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果がかからない。

- サウンドフィールドがきちんと選ばれているか確認する（18ページ）。
- スピーカーの接続と設定を確認する（10、14ページ）。
- ドルビーデジタルのディスクであっても5.1チャンネルすべてから出力されないもの（モノラルやL、Rステレオなど）もあります。

センタースピーカーからしか音が出ない。

- ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもあります。

フロントスピーカーからしか音が出ない。

- サウンドフィールドがきちんと選ばれているか確認する（18ページ）。
- スピーカーの音量を調節する（17ページ）。

リアスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。

- サウンドフィールドがきちんと選ばれているか確認する（18ページ）。
 - スピーカーの音量を調節する（17ページ）。
-

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体との間に障害物がある。
 - リモコンと本体との距離が離れている。
 - 本体のリモコン受光部  に向けて操作していない。
 - リモコンの電池が消耗している。
-

正常に動作しない。

- 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、電源コンセントを抜き差して、もう一度動作させてください。
-

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-BE1
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

SA-WBE1（サブウーファー）

実用最大出力

ウーファー： 40W (6、JEITA*)

フロント： 20W + 20W (6、JEITA*)

センター**： 20W

リア**： 20W + 20W

* JEITA (電子情報技術産業協会) の規格による測定値です。

** サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

方式 バスレフ型

形状 コーン型、130mm

最大外形寸法 215 × 271 × 302mm (幅/高さ/奥行き、突起部含まず)

質量 約6.3kg

SS-BE1（サテライトスピーカー）

方式 密閉型

形状 コーン型、50mm

定格インピーダンス 6

最大外形寸法 61 × 82 × 65.5mm (幅/高さ/奥行き)

質量 約175g

電源、その他

電源 AC 100V、50/60Hz

消費電力 48W

1W (スタンバイモード)

許容動作温度 5 ~ 35°C

許容動作湿度 5 ~ 90%

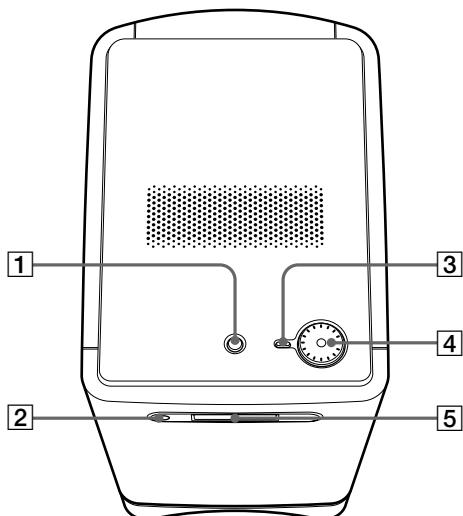
付属品 8ページをご覧ください。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

各部のなまえ

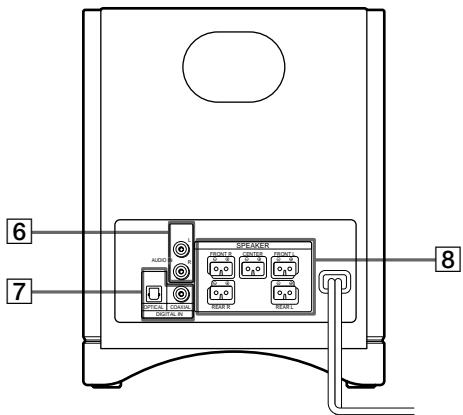
詳しい説明は()内のページをご覧ください。

サブウーファー



上面・前面

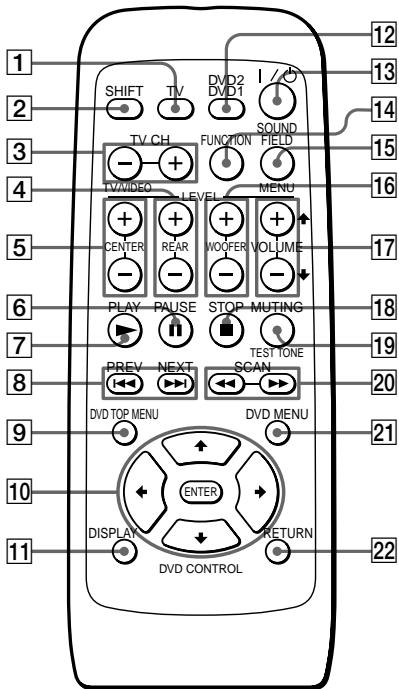
- ① I/Ø (電源) ボタンとインジケーター (16、24)
電源を入/切するときに押します。
- ② (リモコン受光部) (8、26)
リモコンからの信号を受信します。
- ③ MÉNU/ENTERボタン (15、16、17、18、20、21、24)
メニューを出すときに押します。もう一度押すと項目を決定します。
- ④ VOL/SELECTつまみ (15、16、17、18、20、21、24)
音量を調節するときや設定を選ぶときに回します。
- ⑤ 表示窓 (14、16、18)
スピーカー設定項目、入力信号、サウンドフィールドモードなどを表示します。



裏面

- ⑥ オーディオ イン AUDIO IN L/R端子 (12)
テレビやビデオデッキなどの音声端子につなぎます。
- ⑦ DIGITAL IN OPTICAL/COAXIAL端子 (12)
オプチカル イン
コアキシャル
DVDプレーヤーなどにつなぎます。
- ⑧ SPEAKER (スピーカー出力) 端子 (10)
スピーカー
付属のサテライトスピーカーをつなぎます。

リモコン



- ① テレビ
TVボタン (23)
テレビの電源を入/切するときに押します。
- ② SHIFTボタン (14、17、20、21、22、23、24)
ボタンの機能を切り換えるときに押します。
- ③ TV CH +/- (TV/VIDEO) ボタン (23)
テレビのチャンネルを切り換えるときに押します。
テレビの入力を切り換えるときは、SHIFTボタンを押しながら、一ボタンを押します。
- ④ REAR +/-ボタン (17)
リアスピーカーの音量を調節するときに押します。
- ⑤ CENTER +/-ボタン (17)
センタースピーカーの音量を調節するときに押します。
- ⑥ II PAUSE (一時停止) ボタン (22)
再生を一時停止するときに押します。
- ⑦ ▶PLAY (再生) ボタン (22)
再生するときに押します。
- ⑧ I◀◀PREV/▶NEXTボタン (22)
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押します。
- ⑨ DVD TOP MENUボタン (22)
タイトルメニューを出すときに押します。
- ⑩ ←/↑/↓/→/ENTERボタン (22)
←/↑/↓/→で項目を選び、ENTERを押して決定します。
- ⑪ DISPLAYボタン (23)
DVDプレーヤーの設定画面を表示します。
- ⑫ DVD 1/DVD 2ボタン (22)
DVDプレーヤーの電源を入れるときに押します。
- ⑬ I/○ (電源) ボタン (14、16)
本機の電源を入/切するときに押します。
- ⑭ FUNCTION (入力切り換え) ボタン (16)
入力を切り換えるときに押します。

- 15 SOUND FIELD (MENU)ボタン**
 サウンド フィールド メニュー
 (14、18、20、21、24)
 サウンドフィールドモードを選ぶときに押します。SHIFTボタンを押しながら、このボタンを押すとメニューの設定ができます。
- 16 WOOFER +/−ボタン (17)**
 サブウーファーの音量を調節するときに押します。
 ウーファー ボリューム
- 17 VOLUME (音量) +/−ボタン (14、16、20、21、24)**
 スピーカー設定を行うときや、音量を調節するときに使います。
 SHIFTボタンを押しながら、このボタンを押すとスピーカー設定ができます。
- 18 ■STOP (停止) ボタン (22)**
 再生を止めるときに押します。
 ストップ
- 19 MUTING (TEST TONE) ボタン**
 (16、17)
 音を消したいときに押します。
 SHIFTボタンを押しながら、このボタンを押すとテストトーンが出ます。
- 20 ◀◀/▶▶SCANボタン (22)**
 画像を見ながら場面や曲を探すときに押します。
 スキャン
- 21 DVD MENUボタン (22)**
 DVDメニューを出すときに押します。
 メニュー
- 22 RETURNボタン (23)**
 前の画面に戻るときに押します。
 リターン

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Korea

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

- ナビダイヤル  0570-00-3311
(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)
- 携帯電話・PHSでのご利用は 03-5448-3311
- Fax 0466-31-2595

受付時間：
月～金
9:00～20:00
土・日・祝日
9:00～17:00